

令和7年度 第2回空知地域づくり連携会議（南空知ブロック会議） 共創ミーティング



人と自然が共生するまち 栗山町

ネイチャーポジティブの実現に向けて

1 ネイチャーポジティブの実現に向けた役割

栗山町では、昭和60年に国蝶オオムラサキが発見されたことを契機に、「ハサンベツ里山20年計画事業」や「サケの稚魚放流事業」をはじめ、町民有志と行政が連携した取組がたくさんあります。

このような取組が持続可能な発展を遂げていくためには、長い時間をかけて形成されてきた多様な生態系を保全し続けていくことが必要です。

そのためには、町民、関係機関・団体、町がそれぞれの役割を担いながら、取組を進めていくことが重要です。

【町民、関係機関・団体、町の役割】

（町民）

自らが有する良好な環境のもとで健康で文化的な生活を営む権利を、将来の世代に継承する役割を担う。

（関係機関・団体（事業者））

地域社会の一員として、環境への負荷の少ない社会を形成する役割を担う。

（町）

よりよい環境づくりを進めるための中心的な役割を担う。

【目指すべき将来像】

人と自然が共生するまち くりやま

【基本目標】

（基本目標1）自然を守り、次代につなぐまちづくり

～自然環境の保全・再生、河川環境の整備

（基本目標2）ゼロカーボンの実現に向かうまちづくり

～地球温暖化対策の推進、持続可能な農業生産体制の構築、森林の保全・整備

（基本目標3）資源を大切にするまちづくり

～ごみの減量化・資源化の推進



栗山町ネイチャーポジティブ宣言

近年、地球規模で生きものの絶滅が急速に進み、生物多様性が失われ続けています。

国際社会では、自然と共生する世界を実現するため、生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」が国際目標に設定されました。

我が国においても、新たな国際約束の達成のため「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定され、自然を活かした地域づくりや一次産業等の推進、希少種の保全、陸・海域の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する「30by30」の達成などが目標に設定されました。

本町ではこれまで、ハサンベツ里山20年計画事業、夕張川魚道整備や稚魚放流事業、ゼロカーボンシティ宣言、ごみ分別（リサイクル）の推進をはじめとする、環境保全の活動を進めてまいりました。

このような活動が持続可能な発展を遂げていくためには、長い時間をかけて形成されてきた多様な生態系を保全し続けていくことが必要であります。

栗山町は、以下の3つの目標のもと、町民、関係機関・団体（事業者を含む）、町が共に豊かな生物多様性を次世代に継承し、未来を守るための取組を積極的に行い、自然を回復軌道に乗せるための「ネイチャーポジティブ」の実現を目指す意志を示すため、ここに「栗山町ネイチャーポジティブ宣言」をいたします。

1. 自然を守り、次代につなぐまちづくりを進めます。
2. ゼロカーボンの実現に向かうまちづくりを進めます。
3. 資源を大切にするまちづくりを進めます。

令和6年9月14日

北海道栗山町長 佐々木 学

2 令和7年度の取組「生物多様性の保全を普及推進します」

■ 重点的に実施する施策

【施策1】

協議会の設立に向けた協議

- ネイチャーポジティブ提唱団体との打ち合わせ
5回開催（4月～6月）
- ネイチャーポジティブ提唱団体と自然関係団体との懇談
2回開催（10月～11月）

【施策2】

イベント・啓発活動の実施

- まちづくり懇談会での説明（4月～5月）
- 啓発パンフレットの作製（令和8年1月）

【施策3】

関係機関・団体・町などによるネイチャーポジティブに資する取組の実施

- サケ稚魚放流会（4月）
- ハサンベツ里山の日（5月～11月）
- 企業の森林（もり）づくり～下刈り体験会（8月）
- クリーン大作戦（9月）
- 地球温暖化対策（通年）ほか

【施策4】

環境省「自然共生サイト」の認定に向けた取組

- 環境省 北海道地方環境事務所による現地視察（5月）
- 日本自然保護協会への訪問（5月）
- 環境省 北海道地方環境事務所への訪問（7月）
- 環境省への訪問（7月）
- 釧路市生物多様性セミナーへの参加（10月）
- 身近な自然資本の活用に係る意見交換会「自然共生サイトを
活用した協働による生物多様性増進を目指して」で事例紹介
（11月）

イベント・啓発活動

■ ネイチャーポジティブの集い（令和7年6月2日）

【目的】

「ネイチャーポジティブ」をテーマに、その概念を理解し、どのように実践に移せば良いのかを学び考える

【主な内容】

- 栗山町におけるネイチャーポジティブ事業の説明
- 中田環境副大臣（当時）による講演



ネイチャーポジティブに資する取組

■ 栗山町行政ポイント事業（栗山町まちづくり地域応援ポイント）

<事業目的>

町が実施する事業の参加者等に対し、新商店街地域カードで
使用することができる行政ポイントを発行。

<ポイント区分>

町政・まちづくり推進ポイント、ネイチャーポジティブ推進ポイント、
健幸のまち推進ポイント、町民応援ポイント

<新商店街地域カード>

「くりやまネイポジポカード」
QRコードを媒体としたシステム運用
スマホアプリ導入によるカードレス運用
クラウド一括管理、データの有効活用

<運用開始>

令和7年11月



ネイチャーポジティブ
イメージキャラクター「だいだらポジー」

3 ネイチャーポジティブの実現に向けた取組



■ 令和8年度の重点的に実施する施策

【施策1】

協議会準備会の設立・協議

● 設立協議

ネイチャーポジティブ提唱団体や自然関係団体などをはじめとする町内関係者、環境省 北海道環境パートナーシップオフィスなどの有識者により、ネイチャーポジティブの実現に向けた協議体準備会を設立し、今後の取組や具体的な目標などについて協議する。

● 先進地視察

ネイチャーポジティブの実現に向けて、環境省や自然環境組織等と情報の提供やディスカッションなどを行い、今後の事業展開に繋げる。

● フューチャーデザインの実施

町内在住者及び町内小中高校生を対象に、「ネイチャーポジティブなまちづくり」をテーマを想定。

【施策2】

イベント・啓発活動の実施

町内外へのPRを図り、ネイチャーポジティブの実現に向けた機運を高める。

● 啓発グッズ等によるPR

● 事業所による「ネイチャーポジティブ」の推進

【施策3】

関係機関・団体・町などによるネイチャーポジティブに資する取組の実施

サケ稚魚放流会、ハサンベツ里山の日、ごみの適正分別・リサイクルの推進、地球温暖化対策、企業の森林（もり）づくり ほか。

【施策4】

環境省「自然共生サイト」の認定に向けた取組

提出書類の確認並びに申請に必要な資料やデータの収集、申請・相談窓口である独立行政時法人 環境再生保全機構や、公益財団法人 日本自然保護協会の自然共生サイト担当者などからの情報収集や情報提供などを行う。

最終的に目指す取組

■ 環境省「自然共生サイト」の認定

環境省が令和5年度から「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定。

令和7年4月からは、自然共生サイトを法制化した「地域生物多様性増進活動促進法」に基づく実施計画により認定された区域が「自然共生サイト」となる。

ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みの一つで、認定区域はOECDとして国際データベースに登録される。

※OECD

法令によって自然が守られる保護区域ではなく、人々が生業や民間の自発的な取り組みによって自然が守られている地域。企業の管理する水源の森や、地域が管理する里山里山などが該当。

■ 「環境基本計画」を策定

環境の保全等に関する施策を進めるための指針を定める。

■ 「環境基本条例」の制定

環境の保全等に関する基本的事項を定める。

4 多様な主体の共創（連携・協働）による地域づくりに向けて

近年、気候変動とともに、生物多様性に関する注目が集まっており、森や里山、農地、都市などを連続する空間として繋ぎ、自然環境保全・再生が連携した地域づくりは、行政・民間事業者・住民など多様な主体が参加し、より良い社会を創造するために統合的にアプローチする時代を迎えています。

令和7年度「手づくり郷土(ふるさと)賞」(国土交通大臣表彰)

【概要】

地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資する。

【受賞案件】

ホテル舞い、サケが遡上する郷土(ふるさと)の川～童謡のみえる里山づくり～

【受賞団体】

栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会、夕張川自然再生協議会、栗山オオムラサキの会

【活動内容】

わかりやすい図案や童謡を用いて作られたハサンベツ里山20年計画を作成し、栗山青年会議所や栗山建設協会をはじめ町内のさまざまな団体等が協力して自然環境の再生と住民参加の促進を図ってきた。小川の造成や魚道設置を行う「春の小川はサラサラ」プロジェクトなどの取組や、夕張川流域でのサケ稚魚放流会を含む「ふるさとのかわづくり」などの活動を展開し、今後も豊かな自然と暮らしを未来につなぐ活動に期待が寄せられている。

自然環境は、より良い社会を創造するための地域資源であり、引き続き官民連携による自然環境保全・再生の取り組みを進めるとともに、将来的には保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、有機的に繋いでいく取り組みも展開していく必要があると考えている。



ハサンベツ里山



國蝶オオムラサキ



サーモンロード